

# 教育研究業績書

2020年10月27日

所属：教育学科

資格：准教授

氏名：奥村 真司

研究分野	研究内容のキーワード
応用言語学 Applied Linguistics	言語教育政策, 小学校外国語教育, テクノロジーによる言語学習 Language-in-education policy, Foreign language education in primary schools, Technology enhanced language learning
学位	最終学歴
MA in Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL) (Central Michigan University) PhD in Applied Linguistics (Monash University)	Monash University, Faculty of Arts, School of Languages, Literatures, Cultures & Linguistics (Australia) 博士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 教育用ソーシャルネットワークを活用した、メルボルン国際日本語学校との国際理解に関する交流活動	2017年07月～2017年08月	メルボルンの高校生の卒業研究課題（日本文化考察）のために、大教1年の英語Ⅰ、Ⅱの履修学生が、教育用SNSを活用し、オンラインで交流するとともに情報提供を行った。
2. カーディフ大学とのオンライン言語文化交流活動	2015年10月～2018年01月	大教1年科目「英語II」において、教育用SNS、Edmodoを活用し、英国カーディフ大学の学生（日本語学習者）と英語と日本語を使用した双方向コミュニケーション活動を実施している。
3. セントラルミシガン大学とのオンライン言語文化交流活動	2015年10月～現在	大教1年科目「英語II」において、教育用SNS、Edmodoを活用し、米国セントラルミシガン大学の学生（日本語学習者）と英語と日本語を使用した双方向コミュニケーション活動を実施している。
4. 小学校教科化に向けた人材育成としての小学校英語ワークショップの試み	2015年09月01日～現在	担当する児童英語教育ゼミの学生（3, 4年生）が近隣の小学校児童を対象に小学校英語ワークショップを開催している。2020年からの小学校英語教科化に向けた英語に強い小学校教員の育成に寄与している。
5. ビデオ会議システムを使用した、メルボルン国際日本語学校との英語コミュニケーション活動	2015年06月20日	大教2年「外国語コミュニケーションⅠ」の授業において、ビデオ会議システム、Skypeを活用し、受講学生がメルボルン国際日本語学校の高校生と英語でコミュニケーションを行う機会を設定し実行した。
6. 教育用ソーシャルネットワークを活用した英語コミュニケーション活動	2015年06月～現在	大教1年「英語Ⅰ」のクラスにおけるプロジェクト活動として、教育用SNSであるEdmodoを活用したネット上での英語コミュニケーション活動を行っている。
7. 教育用ソーシャルネットワークを使用した、メルボルン国際日本語学校とのオンライン国際交流活動	2015年06月～2015年07月	教育用SNS、Edmodoを活用し、大教2年「外国語コミュニケーションⅠ」受講者とメルボルン国際日本語学校の高校生がネット上で英語コミュニケーションの活動を行う機会を設定し実施した。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 2018年度教員免許更新講習講師	2018年07月30日	選択必修科目の一講座として、現職教員を対象に、小学校英語教育に関する理論と実践に関して、第2習得に関する理論、指導方法、教材の活用方法についての講義と演習の授業を行った。
2. 日本ーオーストラリア 小学校テレコラボレーションプロジェクト	2017年09月01日～2018年03月23日	英語を学ぶ日本の小学生と日本語を学ぶオーストラリアの小学生が、英語と日本語を使って、お互いの国の文化を紹介し合うテレコラボレーションの活動を、小学校教員とともにデザインし実行した。
3. 2017年度教員免許更新講習講師	2017年08月09日	選択必修科目の一講座として、現職教員を対象に、小学校英語教育に関する理論と実践に関して、第2習得に関する理論、指導方法、教材の活用方法についての講義と演習の授業を行った。
4. 2016年度教員免許更新講習講師	2016年08月10日	選択必修科目の一講座として、現職教員を対象に、小学校英語教育に関する理論と実践に関して、第2習得に関する理論、指導方法、教材の活用方法についての講義と演習の授業を行った。
5. 東京都世田谷区立代沢小学校 校内研究（英語活動）講師	2009年09月29日	公立小学校における外国語活動（英語）の研究授業への講評をするとともに、実践方法や教材の活用方法の紹介等を行った。
6. 東京都江東区立数矢小学校 校内研究（英語活動）講師	2009年08月20日	公立小学校における外国語活動（英語）の実践方法や教材の活用方法の紹介等を行った。
7. 東京都世田谷区立代沢小学校 校内研究（英語活動）講師	2009年07月05日	公立小学校における外国語活動（英語）の研究授業への講評をするとともに、実践方法や教材の活用方法の紹介等を行った。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>4 その他</b>		
8. 東京都世田谷区立船橋小学校 校内研究（英語活動）講師	2009年05月14日	公立小学校における外国語活動（英語）の研究授業への講評をするとともに、実践方法や教材の活用方法の紹介等を行った。
9. 東京都世田谷区小学校英語活動研究部授業研究会講師	2008年01月23日	公立小学校における外国語活動（英語）の研究授業への講評をするとともに、実践方法や教材の活用方法の紹介等を行った。
10. 東京都世田谷区立船橋小学校校内研究講師	2007年01月25日	公立小学校における外国語活動（英語）の研究授業への講評をするとともに、実践方法や教材の活用方法の紹介等を行った。
11. 東京都世田谷区小学校英語活動研究部授業研究会講師	2006年11月08日	公立小学校における外国語活動（英語）の研究授業への講評をするとともに、実践方法や教材の活用方法の紹介等を行った。
12. 東京都世田谷区小学校英語活動研究部授業研究会講師	2006年11月08日	公立小学校における外国語活動（英語）の研究授業への講評をするとともに、実践方法や教材の活用方法の紹介等を行った。
13. 東京都板橋区立志村小学校（板橋区教育委員会研究奨励校）国際理解教育校内研究 講師	2006年01月18日	公立小学校における国際理解教育の実践に関し、研究授業への講評をするとともに、活動方法や教材活用方法の紹介等を行った。
14. 東京都板橋区立志村小学校（板橋区教育委員会研究奨励校）国際理解教育校内研究 講師	2005年06月22日	公立小学校における国際理解教育の実践に関し、研究授業への講評をするとともに、活動方法や教材活用方法の紹介等を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 小学校教諭1級普通免許	1989年3月31日	小学校全科（東京都教育委員会）
2. 高等学校教諭2級免許	1989年3月31日	英語科（東京都教育委員会）
3. 中学校教諭1級免許	1989年3月31日	英語科（東京都教育委員会）
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		

<b>4 その他</b>		
1. Computer Assisted Language Learning 論文査読者	2020年03月	国際学術誌 Computer Assisted Language Learning の編集長から依頼を受け、工業系英語教育におけるソーシャルネットワークサイトEdomodoの活用に関する論文の査読を行った。
2. TESL-EJ 論文査読者	2019年9月	国際学術誌のTESL-EJの編集長から依頼を受け、CALL 研究に関する論文の査読を行った。
3. Computer Assisted Language Learning 論文査読者	2019年02月05日～02月18日	国際学術誌 Computer Assisted Language Learning の編集長から依頼を受け、外国語学習(writing)におけるSNSの活用に関する論文の査読を行った。
4. Educational Research & Innovation (ERI) 2019 論文査読委員	2019年01月～2019年03月	Research & Innovation (ERI) 2019 のReview Committeeメンバーとして、口頭発表要旨の査読を担当した。
5. International Linguistics Research編集委員	2018年02月03日～現在	International Linguistics Researchの常任編集委員として、応用言語学、英語教育に関する論文の査読を担当している。
6. IAFOR Journal of Education 論文査読委員	2018年02月2020年02月	IAFOR Journal of Education の常任論文査読委員として、応用言語学、英語教育に関する論文の査読を担当している。
7. Interactive Learning Environments 論文査読者	2018年01月20日～2018年02月19日	国際学術誌 Interactive Learning Environments の編集者から依頼を受け、プロジェクト型学習に関する論文の査読を行った。
8. Open Science Journal 論文査読者	2017年09月	Open Science Journal の編集者から依頼を受け、テクノロジーを活用した英語教育に関する論文の査読を行った。
9. 2017年度朝日小学生新聞、朝日新聞主催「朝小サマースクール in 武庫川女子大学」小学校英語ワークショップ	2017年08月08日	朝日新聞主催「朝小サマースクール」において、武庫川女子大学教育学科の児童英語教育ゼミの学生（3、4年生）が小学校児童を対象に小学校英語ワークショップを行った。
10. International Journal of English Language Education 論文査読委員	2017年02月～現在	International Journal of English Language Education の常任論文査読委員として、応用言語学、英語教育に関する論文の査読を担当している。
11. The Asian Conference on Technology in the Classroom 2017 上級査読者	2017年01月20日～2017年02月28日	上級査読者 (Senior reviewer) として、The Asian Conference on Technology in the Classroom 2017の口頭発表要旨の査読を担当した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 小学校英語 One World Smiles 5, 6	共	2020年04月01日	教育出版	令和2年度 外国語科 文部科学省検定教科書 (著者 金森強、本多敏幸、泉美恵子、奥村真司ほか)
2. 『特別支援論Ⅱ』第5章 母語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある幼児、児童および生徒の学習上または生活上の困難や組織的対応	共	2020年	姫路大学通信教育部	本章では、日本語習得を主とする言語的な側面や日本社会への適応などの文化的側面に関わる特別な教育的配慮を要する外国人児童生徒に関する問題を明確にし、政府の政策および地方自治体や外部団体等における組織的な支援の現状について概説している。(著者 小河晶子、西本佳子、奥村真司)
3. 小学校英語科教育法	共	2019年03月	成美堂	本稿では、小学校外国語教育における体験的な学びの場としてのテレコラボレーションの在り方を述べるとともに実践事例を紹介した。「体験的な学びで育みむ言語能力」を担当 (pp. 297-3000) (著者：金森強、奥村真司 ほか)
4. グローバル化と言語政策—サステイナブルな共生社会・言語教育の構築に向け	共	2017年10月	明石書店	オーストラリアの中でも多民族化が顕著なビクトリア州は、多言語教育を積極的に推進している。本稿では、ビクトリア州の多言語教育政策について、その変遷を踏まえ、2011年と2013年の政策文書から、多言語教育に関わる取り組みを詳述した。とりわけ、初等教育段階に焦点を当て、具体的な言語政策戦略を紹介した。その上で、近年グローバル化と多様化が進む日本社会における初等外国語教育に対して、異文化理解教育のさらなる推進の提言を行った。第5章「オーストラリアの言語教育政策から日本の初等外国語教育を考える」を担当 (pp. 83-98) (著者：宮崎里司、奥村真司、杉野俊子、飯野公一ほか)
5. 主体的な学びをめざす小学校英語	共	2017年10月	教育出版	本稿では、教育用ソーシャルネットワークサイトであるエドモドを活用した、日本と海外（主に英語圏）の児童によるオンライン交流活動を提案した。その内容としては、交流先の探し方、交流方法、活動内容のあり方を挙げた。このようなオンラインで世界の子どもたちと交流することは、外国語や文化に対する興味・関心を高めるだけでなく、最近の外国語学習が教室や国・地域を超えたボーダーレスなものになっていることを実感させてくれると提言した。「Report 海外との交流活動の具体案」を担当 (p. 94-97) (著者：松本茂、泉美恵子、本多敏幸、金森強、奥村真司 ほか)
6. 外国語学習の実践コミュニティ：参加する学びを作るしかけ	共	2017年07月	ココ出版	本稿では、オーストラリア、ビクトリア州の言語教育政策と実践の関係性に着目し、多言語教育における小学校と中等学校の連携の成功事例を、実践コミュニティの概念をもとに紹介している。言語教育において、異なる教育段階の連携は日本を含むさまざまな国や地域で重要視されている。その点において、ビクトリア州の言語教育における小中連携の事例は、長期的な充実した連携を行うための良い材料になると結論づけた。第13章「小学校と中等学校のコミュニティ—ビクトリア州の日本語教育」を担当 (p. 253-264) (著者：トムソン木下千尋、大川裕司、奥村真司ほか)
7. バイリンガルテキスト 現代日本の教育 <制度と内容>	共	2010年06月	東信堂	本稿では、日本の小学校から高等学校までの英語教育について、枠組、始期、目的、時数、教科書の5つの観点から叙述した。枠組については、英語教育の近年の動向を記した。始期については、公立小学校における英語教育について、導入に関わる背景から「英語活動」の目的や課題を述べた。目的と時数に関しては、学習指導要領の内容に基づいた状況を記した。教科書に関しては、言語事項や言語の使用場面等について学習指導要領の内容に基づき説明した。「第7章 教科教育等の 特色、10 外国語活動、外国語」を担当 (pp. 542-563) (著者：村田翼夫、山口満、奥村真司ほか)
8. 小学校英語教育の進め方—「ことばの教育」として—	共	2006年11月	成美堂	本稿では、小学校英語教育における効果的な教育環境の設定と校内研修のあり方について叙述した。教育環境整備に関しては、普通教室および外国語活動専用教室の整備内容および配慮事項について、具体例を挙げながら提示した。校内研修については、小学校英語活動を円滑に進めるために校内の共通理解を充実させていくことが提唱され、教員間、教員と外部講師および教員と保護者の間における相互理解方法と留意事項が示した。「2章 校内の環境作り、共通理解と校内研修」の章を担当 (pp. 95-99)。(著者：岡秀夫、金森強、太田光春、奥村真司ほか)
9. バイリンガリズムと小学生英語教育	共	2003年04月	リーベル出版	本稿では、第1節において、公立小学校での英語活動における指導者の課題（主に学級担任の不安と外国人指導助手への依存）を述べた。その上で、学級担任が英語教育に携わることにに関して、簡単なクラスルーム英語表現やTotal Physical Response の使用

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
				などの具体的方策を提言した。第2節では、小学校英語教育の指導者として求められる資質（英語力、指導法の理解、異文化理解能力）について述べるとともに、具体的な研修方法について提言した。「第7章 小学生英語教育の指導者」の章を担当（pp.115-131）。（著者：大島眞、佐久間禄、轟田公江、奥村真司）
<b>2 学位論文</b>				
1. Policy and implementation for the teaching of Asian languages in Australian primary schools - A case study of Japanese in Victoria	単	2015年12月	Monash University (Australia)	本研究では、オーストラリアの多言語教育政策との学校教育における言語教育実践の関係性を、言語政策に関する理論をもとに考察した。具体的な政策戦略として、ICTの活用やアジアの国々との交流面において、政策と教育実践の強固な関係があることが明らかになった。一方、言語教師の養成と確保や他言語教育の持続可能性において課題が認められた。
<b>3 学術論文</b>				
1. Developing the workforce of primary school English through peer coaching in pre-service teacher training (査読付)	単	2020年09月 (刊行予定)	English Language Teacher Education and Development (ELTED) Journal	本論では、私立大学教員養成課程において、小学校英語教育に関する人材育成としての実践的トレーニングの企画、実行、および大学生のトレーニングについての認識を詳述した。
2. Design and implementation of a telecollaboration project for primary school students to trigger intercultural understanding (査読付)	単	2020年05月	Intercultural Education, 31(3), 1-16.	本研究では、教育用ソーシャルネットワークを活用した、日本とオーストラリアの児童によるオンライン交流活動を企画、実行した成果について、双方児童の異文化間理解に焦点をあて論述した。
3. Authentic teaching opportunities of English for primary students as a community of practice: A case of pre-service teacher education at a Japanese university (査読付)	単	2017年07月	International Journal of English Language Teaching 4(2), pp. 20-26 ERIC Document Reproduction Serviceに再掲載 No. ED574789	本研究は、日本の大学の小学校教育養成課程において、児童英語教育のゼミに所属する学生が、大学近隣の小学生を対象とした英語ワークショップを行った活動を「実践コミュニティ」の概念を基に考察したものである。この取り組みを通して、小学校教員を目指す学生は、協働的な学びを通して、英語指導能力を高めることができた。また、下級生はワークショップの経験者である上級生の活動を観察しながら学ぶという正当的周辺参加のもと、知識や技能を習得することができた。
4. Integrating language and content Challenges in a Japanese supplementary school in Victoria (査読付)	共	2017年06月	Babel 51(2), pp.24-29 ERIC Document Reproduction Serviceに再掲載 No. ED577703	本論文では、メルボルン国際日本語学校（授業補習校）の算数・数学教育において、内容中心型言語教育の理論をもとに実践した教育実践について実践報告をしている。具体的な取り組みとして、アカデミック日本語能力が低い児童・生徒に対してビデオ映像やパワーポイントを多用した授業を行い、算数・数学の知識と問題解決能力を高める工夫をした。このような授業実践を通して、教師は内容中心型授業における視覚教材の有効性を確認した。（共著者 小原由美）
5. Edmodo as a tool for the global connection between Japanese and American college students in language learning (査読付)	単	2017年03月	武庫川女子大学 教育学研究論集12号 pp. 9-17 ERIC Document Reproduction Serviceに再掲載 No. ED573434	本研究は、教育用ソーシャルネットワーキングサイトEdmodoを活用し、日本で英語を学ぶ日本人学生と米国の大学で日本語を学ぶ学生がオンラインで交流する活動について、日本人大学生の英語学習に焦点を当て、彼らがその活動をどのように認識したかについて論じたものである。多くの日本人学生は、アメリカの学生との交流を肯定的に捉えていた。また学生は、オンライン上の交流を通して、海外の学生生活や文化を知る有意義な経験になったと認識した。
6. Homeroom Teachers or Specialist Teachers?: Considerations for the Workforce for Teaching English as a Subject at Elementary Schools in Japan (査読付)	単	2017年01月	Asian Journal of Education and Training, 3(1), pp. 1-5 ERIC Document Reproduction Serviceに再掲載 No. EJ1147465	日本の小学校では2020年より第5、6年生において外国語が教科となる。しかし、教科としての英語を担当できる教員の供給と専門性の向上については課題も多い。本論文では、初めに最近の英語教育政策動向を精査している。次に英語教育に関して、学級担任と専科教員のメリットと課題を述べるとともに小学校英語教員に求められる資質について論じている。最後に、最近注目されている小学校高学年の新しい専科システムを紹介し、これからの小学校英語教育における指導者についての示唆を与えている。
7. The use of an educational social networking site for English language learning beyond the classroom in a Japanese university setting	単	2016年03月	武庫川女子大学教育学研究論集11号 pp.39-45 ERIC Document Reproduction Serviceに再掲載 No. ED575013	本論は、教育用ソーシャルネットワークを活用した、日本人英語学習者による英語コミュニケーションの促進をねらったプロジェクトについての実践報告である。学生の振り返りをコミュニケーション能力の概念を援用し分析した結果、多くの学生が、自分が相手に対して英文を書くことやクラスメートの英文投稿を読む活動を通して、文法能力を高めることができたことと認識していた。同時に、様々な言い換え表現を学ぶことにより方略能力を高めることができたことと認識していた。
8. シンガポールの初等英語教育課程と英語教科書に関する一考察	単	2010年03月	湘南短期大学紀要21号 pp.21-31	本研究では、シンガポールの2001年英語シラバスにもとづき編纂された小学校英語教科書の分析を行っ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
9. シンガポールにおける初等英語教員養成 - 授業観察からの一考察	単	2009年03月	湘南短期大学紀要20号 pp. 67-74	た。この英語シラバスは、機能言語学の知見を踏まえて編纂されている。主な特徴として、手紙や電子メール、新聞記事など日常生活で頻繁に接触するテキストが数多く含まれ、場面や状況を重視した英語学習が行われていることが明らかとなった。またシンガポールの主要民族の文化についての情報が盛り込まれており、民族相互理解の役割が認められた。 本研究は、シンガポールの教員養成機関、国立教育学院での初等英語教育のための授業を分析したものである。指導講師は、言語教育理論を身につけた小学校教育経験者であり、小学校での教育経験が、教員養成の授業に反映されていた。また、授業内容に、学習者中心型のグループワークや模擬授業が取り入れられていた。また、シンガポールの小学校英語教員養成では、カリキュラムや授業内容において、理論と実践の融合が図られていることが認められた。
10. バイリンガル国における幼児英語教育の実態—シンガポールを事例として	単	2007年03月	湘南短期大学紀要18号 pp. 33-40	本研究は、就学前英語教育の実態の一端を明らかにするためのケーススタディである。現地の実情を把握するために、現地の幼稚園で行われている英語授業を観察するとともに、園長へのインタビューを行った。この結果、シンガポールの就学前英語教育においては、英語は遊びではなく、学習として進められ、文章を読み、書くという活動を通して、学習言語としてのリテラシー能力獲得を重要視していることが認められた。
11. 小学校英語教育における文法指導の考察—シンガポール英語教育の事例から	単	2006年03月	湘南短期大学紀要17号 pp. 17-25	本研究では、2001年に改定されたシンガポールの英語シラバスにおける小学校段階での文法の扱い、とりわけ導入期である1、2年生段階について概観した。またシラバスの内容を反映した低学年の文法指導の授業実践を考察した。シンガポールの英語教育においては、低学年の知的発達段階を考慮した文法指導が行われていることを確認した。その上で、小学校段階からの文法指導のあり方と可能性について提言した。
12. 英語アクセント変種に対する日本人児童の態度 (査読付)	単	2005年11月	慶應義塾外国語教育研究1号 pp. 57-73	本研究では、言語態度の先行研究をもとに、いくつかの英語変種（アメリカ人、オーストラリア人、インド人、日本人の英語アクセント）に対する、日本人小学生の言語態度を検証した。実験結果として、日本人児童は、英語学習経験の有無に関わらず、インド人の英語という、ある一つの非母語話者の英語アクセントに対して否定的な態度を示した。また、英語学習経験の無い小学生の言語態度は、英語学習経験のある小学生や大学生のものとは変わらなかった。
13. Nominalization and lexical density in non-native English students' summaries: A preliminary study (査読付)	単	2005年02月	実践英文学会57号 pp. 49-58	本研究では、米国の大学で学ぶ非英語母語話者学生（学部学生と大学院生）が書いた英語要約文章を選択体系機能言語学における名詞化 (Nominalization) と語彙密度 (Lexical Density) の視点に基づき分析した。結果として、大学院生の英語要約文章により多くの名詞化が認められ、語彙密度も高かった。この結果から、教育レベルが複雑な言語使用に影響を及ぼすと考えると結論づけた。
14. シンガポール日本人学校児童の英語使用の実態と今後の課題	単	2003年12月	月刊「海外子女教育」2003年12月号 pp. 45-50	本研究では、シンガポール在住日本人児童の課外英語学習の現状と第2言語習得における課題について、質問紙調査をもとに検証した。調査の結果、児童の課外生活で英語使用が限定的であり、英語力向上には時間的に不十分であることが認められた。学校での英語学習を習得として高めていくためには、学校外の英語使用がもっと盛んに行われることが必要であると結論づけた。
15. Attitudes toward accents of Asian English: A survey of Anglo-American college students	単	2003年03月	湘南短期大学紀要14号 pp. 121-127	本研究は、さまざまな英語話者の英語発音に対して、アメリカ人大学生がどのようなステレオタイプを持つかについて、社会言語学の理論である言語態度 (Language Attitude) の視点をもとに検証した。実験結果として、英語話者の発音について、明瞭さと流暢さの点で評価に違いが認められた。
16. Discrimination of English fricative sounds by Japanese learners of English in the United States: A pilot study	単	2002年03月	湘南短期大学紀要13号 pp. 99-103	本研究では、在米日本人留学生の英語摩擦音の認識力が滞米年数によって異なるかどうかについて、ミニマルペアの聞き取り実験により検証した。実験の結果、対米年数と英語摩擦音の聞き取りについて、明確な関係が認められた。とりわけ、日本人が苦手とする摩擦音において、その違いが顕著であった。
17. 首都圏公立小学校教員の英語教育についての意識調査	単	2002年03月	小学校英語教育学会紀要第2号 pp. 7-11	公立小学校での英語教育については、カリキュラム、教材、指導法、指導者などについて数々の課題が指摘されている。本研究では、小学校英語教育に対する公立小学校教員の意識を、質問紙方法を用いて調査した。その結果、多くの学級担任は、英語指導

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
18. 若者言葉を考える一湘南短期大学女子学生の若者言葉使用を通して	単	2002年01月	湘南文学15号 pp.166-172	<p>に対する不安を持っていることを確認した。具体的な不安要素として、英語力の欠如、指導法に対する経験不足が挙げられた。</p> <p>本研究では、これまでの若者言葉についての文献や研究をもとに、最近の女子大学生が使用する若者言葉について実態を考察した。調査結果からは、若者言葉が社会に密着していると同時に、その使用には若者の集団への連帯意識を含めた個人差があることが認められた。</p>
19. The effect of background knowledge on English as second language (ESL) reading comprehension: A pilot study (査読付)	単	2001年03月	関東甲信越英語教育学会研究紀要15号 pp.111-130	<p>本研究では、第2言語としての英語学習者が持つ背景知識が、英語文章読解にどのような効果を与えるかを検証した。事前テストと事後テストの結果から、背景知識が、読解に大きな影響を与えていることが明らかとなった。しかしながら、背景知識の影響に関して、母語話者と非母語話者の違いに大きな差は認められなかった。</p>
20. American undergraduates' attitudes toward Asian-accented English: Stereotypes of accent, nationality, and appearance (査読付)	単	2001年03月	国際コミュニケーション英語研究所紀要 IRI CE PLAZA, vol.11, pp.152-159	<p>アジア人留学生の英語発音に対するアメリカ人大学生の態度 (Language Attitude) とそれぞれの話し手の出身国に対するステレオタイプとの関係を社会言語学的な実験 (マッチ・ガイド法) をもとに分析した。実験の結果から、アメリカ人大学の、アジア人留学生の英語発音に対する認識は、それぞれの留学生の容姿と出身国に対するステレオタイプと密接に関わっていることが確認された。</p>
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. Japanese Calligraphy: Origins and Practice	単	2019年11月2日	12th Annual International Education & Diversity Forum	Whitworth Universityで開催された国際教育フォーラムにおいて、日本の書き言葉の文化、日本での書道の歴史、教育現場における書道の指導について発表した。また、教育学科の学生とともに、参加者に対して書道の実践ワークショップを行った。
2. A Telecollaboration Project among Australian and Japanese Primary Students	共	2018年11月2日	The biennial 4th National Symposium on Japanese Language Education (NSJLE), The University of Technology, Sydney (UTS).	本研究では、初等学校並びに中等学校の言語教師を対象とし、ソーシャルネットワーク (SNS) を活用した日本の児童・生徒の言語交流、異文化間交流を企画、実行するための、モデル事例を提供した。(共著者 植草雅絵)
3. A case of computer-mediated communication using an educational social network site to facilitate learning primary school English	単	2018年08月	The 3rd International Conference on the Globalization on Second Language Acquisition and Teacher Education	本発表では、教育用ソーシャルネットワークを活用した、日本とオーストラリアの児童による交流活動について、Computer-mediated communication (CMC)に関する先行研究を基に、日本人児童の英語学習に焦点をあて、彼らの意識について報告している。多くの日本人児童にとって、この活動は、今後の英語学習へのモチベーションを高めたことから、オーセンティックな言語活動の意義を認識した。
4. 日本-オーストラリア 小学校テレコラボレーションプロジェクト教育用ソーシャルネットワーク Edmodo を活用した事例	単	2018年06月	日本比較教育学会第54回大会	本発表は、教育用SNS、Edmodo を活用した、日本とオーストラリアの小学生によるテレコラボレーションプロジェクトの実践報告である。活動に対する児童の振り返りから、双方の児童がこの交流プロジェクトを外国人とつながる意義深いものと捉えるとともに異文化理解のよい機会と認識した。本プロジェクトは、教育用SNSを活用した海外の学校間テレコラボレーション活動のモデルケースとなったと考える。
5. A case study of communicative activities between learners of Japanese at beginner level and Japanese learners of English on SNS.	共	2017年09月	EAJJS2017: 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies, Lisbon, Portugal, 30 Aug - 2 Sept 2017	イギリスの大学生 (初級日本語学習者) と日本の大学生 (中上級英語学習者) のオンラインコミュニケーション活動について、日本語教育に焦点を当てて考察した。主な成果として、初級日本語学習者は、授業内での学習内容をコミュニケーション活動での日本語使用に即座に応用することができたこと、日本語タイピングの良い練習機会となったことを報告した。(共著者 稲葉美穂)
6. Written communication with native speakers on SNS: challenges for beginner students of Japanese	共	2017年06月	4th LanGW4 Colloquium on Innovation in Modern Languages Education, Cardiff University, UK	教育用SNS、Edmodoを活用した、イギリスの大学生 (日本語学習者) と日本の大学生 (英語学習者) のオンライン言語交流について、日本語教育の視点から、成果と課題を考察した。この活動の主な成果として、初級日本語学習者が日本語ネイティブスピーカーとの言語交流を通じて、日本語学習への意欲を高めることができた。一方、課題として、個人によって交流の頻度が大きく異なっていた。(共著者 稲葉美穂)
7. 外国語教育における内容言語統合型学習 (CLIL) の考察ーオーストラリア・ビクトリア州を事例とし	単	2017年06月	日本比較教育学会第53回大会	本研究は、言語教育政策研究の視点から政策としてCLILの内容と初等教育での実践の関係について検証した。日本語教師へのインタビュー結果から、CLIL

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
て				は児童の日本語学習の動機づけとしては有効であったこと、学級担任と日本語教師の協働性が高まったことを効果として挙げたが、準備時間の増加、教材不足、児童のコミュニケーション活動の欠如を課題として認識していた。また2017年現在、2つの小学校ではCLILを行っていないことから、持続可能性も課題となった。
8. A case study of using Edmodo to enhance language learning for Japanese and British students at tertiary level	共	2017年05月	The Asian Conference on Technology in the Classroom 2017	本発表は、教育用ソーシャルネットワークを活用した日本と英国の大学生によるオンラインコミュニケーションプロジェクトの実践報告である。双方の大学生は、1学期間いくつかのトピックについて日本語と英語を使用し、コミュニケーションをすることによって、言語学習への意欲の高まり、目標言語の技能向上並びに異文化への興味関心を高めた。一方、オンライングループの人数設定や学生によるコミュニケーションの持続性において課題が見られた。(共同発表者 稲葉美穂)
9. 実践コミュニティの場としての小中連携プログラム	単	2016年12月	子どもの日本語教育研究会第1回研究会	本研究では、オーストラリア、ビクトリア州の日本語教育における小学生と中等学校の生徒とのつながりに着目し、「実践コミュニティ」の概念を援用し分析した。教師へのインタビューの内容分析の結果、この小中連携訪問プログラムは、実際の状況の中での日本語使用があり、小学生、中等学校の生徒のどちらにも有意義なものであることが認められた。
10. The use of Edmodo to enhance second language learning among Japanese and American college students	共	2016年09月	2016 International Conference on Japanese Language Education, Bali	本研究は、教育用ソーシャルネットワークを活用し、日本の大学生とアメリカの大学生が国や教室という垣根を超えて英語と日本語を学び合うつながりの取り組みについて、アメリカの大学での日本語教育サイドに焦点をあてた報告を行った。学生の取り組みとフィードバック、教師のフィードバックから、この活動が、このプロジェクトが学習者中心型であり、学生の日本語学習における自律性を高めるものとなったことを確認した。(共著者 Maiko Bronson)
11. オーストラリアの外国語教育における日本とのつながり	単	2016年06月	日本比較教育学会第52回大会	本発表では、日本とのつながりを重視した、ビクトリア州の初等日本語教育の実践について、ケーススタディの手法を用いて考察した。ビクトリア州では初等、中等教育での日本語教育の充実のため、日本人や日本とのつながりの拡大を言語教育政策として推進している。その政策は教育現場にも浸透しており、多くの学校で、日本の学校との姉妹校提携を結び、日本人児童、生徒とのつながりを日本語学習のモチベーション並びに学習意欲向上の手立てとして報告した。
12. 年少者日本語教育におけるTechnology Enhanced Language Learning (TELL)の取り組みーオーストラリア、ビクトリア州を事例として	単	2016年03月	子どもの日本語教育研究会第1回大会	オーストラリア、ビクトリア州の言語教育政策に焦点をあてながら、Technology Enhanced Language Learning (TELL)を取り入れた小学校日本語教育の実践について考察した。言語政策文書、ホームページの内容分析からビクトリア州では、小学校における日本語教育実践で政府の言語政策を土台に日本語教師が新しいテクノロジーを積極的に自身の日本語教育に取り入れ、子どもたちの日本語教育への興味関心ややる気を高めていることが認められた。
13. Future directions and considerations for English education at elementary schools in Japan	単	2016年01月	The Comparative Education Society of Asia 2016	文部科学省が「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を2014年に公表し、小学校学習指導要領の改訂において、初等教育段階における英語教育を強化することを決定したことを受け、日本の小学校英語教育の方向性と課題について論じた。発表では、はじめに日本の小学校英語教育の歴史を振り返った後、2014年の「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」の内容を精査した。最後に、小学校英語教育の効果的実施のための課題を述べた。
14. Exploring content-based approaches for Japanese heritage learners	共	2015年07月	Japanese Studies Association of Australia Conference 2015	本発表では、メルボルン国際日本語学校(授業補習校)の算数・数学教育において、内容中心型言語教育の理論をもとに実践した教育実践について報告した。具体的な取り組みとして、アカデミック日本語能力が低い児童・生徒に対してビデオ映像やパワーポイントを多用した授業を行い、算数・数学の知識と問題解決能力を高める工夫をした。このような授業実践を通して、教師は内容中心型授業における視覚教材の有効性を確認した。(共著者 小原由美)
15. CLIL in Australian primary schools: A case study of Japanese education in Victoria	単	2014年07月	International Conference on Japanese Language Education 2014- Sydney	オーストラリア、ビクトリア州の初等日本語教育におけるContent Language and Integrated Learning (CLIL)の現状と課題をケーススタディの手法で考察、また日本の英語教育でのCLILの可能性について考察した。教師へのインタビューの結果から、学級担任と日本語教師の協働性が高まったことが明らかになった一方、準備時間の増加、教材不足、児童の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
16. シンガポール中等段階における能力別教育の現状	単	2009年06月	日本比較教育学会第45回大会	コミュニケーション活動の欠如が課題として挙げられた。 シンガポールでは、1979年に The New Education System (新教育制度) が導入されて以来、英語を教育第一言語とした能力別教育が行われている。本研究では、中等教育段階における能力別英語教育の現状について、Express Course (快速コース) とNormal Course (通常コース) の授業観察と教師へのインタビューをもとに考察した。生徒の比較では、Academic literacyにおける能力差と授業への取り組み姿勢の差が認められた。
17. 東南アジアの初等教育段階における英語教育の受容と母語教育への影響 (2) -タイ・マレーシア・フィリピン・シンガポールの事例から-	共	2008年07月	日本比較教育学会第44回大会	本発表では、タイ・マレーシア・フィリピン・シンガポールの初等英語教育について、教育課程と授業実践に焦点をあてた考察内容を報告した。各国の小学校英語教育の実態においては、調査対象国では小学校段階から英語運用能力の向上を目指していることが認められた。しかしながら、英語教員の養成と維持の面において、国別の差が顕著であった。(共著者 池田充裕、鈴木康郎、手嶋将博、市川誠、奥村真司)
18. 東南アジアの初等教育段階における英語教育の受容と母語教育への影響 (1) -タイ・マレーシア・シンガポールの事例から-	共	2007年06月	日本比較教育学会第43回大会	本発表では、タイ・マレーシア・シンガポールの初等英語教育について、教育課程、授業実践、教員養成の視点から考察した内容を報告した。発表では、主に各国でのフィールドワークの結果としての授業観察について、映像資料とともに実践事例と特筆すべき特徴や課題を述べた。(共著者 池田充裕、鈴木康郎、手嶋将博、奥村真司)
19. シンガポール在住日本人小学生の英語に対する態度-日本人学校児童への質問紙調査を通して	単	2003年06月	日本児童英語教育学会第24回全国大会	本研究では、シンガポールで生活する日本人小学生が英語使用や学習に対してどのような意識を持っているのか、また現地人によって広く使用されている英語変種、「シングリッシュ」に対してどのような言語態度を持っているかを考察した。シンガポール在住の小学生約180名に対して、質問紙を用いた調査を行った。主な結果として、英語4技能の自己評価において、どの技能においても「できる」または「よくできる」と答えた児童が多く、自身の英語力に対して比較的肯定的な意識を持っていることが挙げられる。
20. 小学校英語教育への保護者の期待～公立小学校児童の保護者へのアンケート調査を通して	単	2002年08月	小学校英語教育学会第3回大会	本研究は、公立小学校へ通っている子どもを持つ母親約100名を対象にアンケート調査を行い、公立小学校の英語活動で望む講師像、放課後の英語学校に望む講師像について考察した。主な結果として、公立小学校の英語活動では、多くの保護者が、日本人英語専科教員と外国人講師のティームティーチングを望む意見が多く、その外国人講師として特にアメリカ人、イギリス人を希望していた。
21. 日本人小学生の英語アクセントに対する言語態度研究	単	2002年06月	日本児童英語教育学会第23回全国大会	本発表では、言語態度の先行研究をもとに、いくつかの英語変種に対する、日本人小学生の言語態度を検証した研究について報告した。日本人児童は、英語学習経験の有無に関わらず、インド人の英語という、ある一つの非母語話者の英語アクセントに対して否定的な態度を示した。また、英語学習経験の無い小学生の言語態度は、英語学習経験のある小学生や大学生のものとは変わらなかった。
22. 公立小学校教員の英語教育についての意識調査	単	2001年07月	小学校英語教育学会第2回大会	本発表は、小学校英語教育についての公立小学校教員の意識を調査した結果の報告である。アンケート調査の結果から、多くの学級担任は、英語指導に対する不安を持っていることを確認した。具体的な不安要素として、英語力の欠如、指導法に対する経験不足が挙げられた。
23. Tutoring, training, and teaching: Writing center as TESOL practicum	共	2000年09月	Symposium on Second Language Writing, Purdue University, Indiana, USA	本発表は、英語非母語話者(大学院生)による外国人留学生への論文指導のケーススタディの報告である。大学院生は、他の留学生へ英語論文指導を行うことによって、英語論文の構成や語用について十分に認識することができ、自らの論文執筆に良い効果をもたらした。(共著者 M. Crawford, L. Grant)
24. A non-native's perspective on the writing center: Cultural differences in ESL writing	単	2000年03月	East Lansing Writing Centers Association Conference, Lansing Community College, MI, USA	本発表では、非英語母語話者が自らのアカデミック英語使用経験やライティングセンターでの指導経験から学んだ英語論文構成や表現の差異についての理解について述べた。非英語母語話者は、その経験と理解をもとに効果的な英語論文作成の方法を身につけることができた。また、英語論文作成には英語圏のアカデミック文化の理解も必要であることを身につけた。
<b>3. 総説</b>				



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. おすすめしたいICTの活用一より効果的な授業のために	単	2020年03月31日	ONE WORLD 教科通信「Smiles」2020年春号	小学校における教科としての英語教育におけるICTの活用について具体的な活動内容を提案した。
2. 介護のにはんご1年生 現場でさいしょに使うことば・表現	単	2019年07月25日	アスク出版	「介護のにはんご1年生 現場で使うさいしょに使うことば・表現」の英語訳を担当した。
3. 児童の能動的な学習を生む小学英語の授業デザイン	共	2018年03月	Edmodo Con 2018	Edmodoでは、さまざまな国や地域の学校の児童・生徒がオンライン学習コミュニティを形成し、相互に交流できる。今回のプロジェクトでは、英語を学ぶ日本の小学生と日本語を学ぶオーストラリアの小学生が、英語と日本語を使って、お互いの国の文化を紹介し合うテレコラボレーションの活動をデザインし、実行した。本講演では、そのプロジェクトの概要並びに成果と課題を報告した。（共同発表者 畑野彩）
4. 教員養成における英語指導力向上のための小学校英語ワークショップ	単	2017年03月	武庫川女子大学 学校教育センター年報 第2号 pp. 85-93	本論では、実践的教員養成トレーニングの側面に焦点をあて、平成28年前期の小学校英語ワークショップの取り組みを詳述した。所属ゼミ学生との話し合いのもと、前期2回ワークショップを行った。学生は、活動を振り返り、小学生への英語指導に関して有意義な機会であると認識していた。また、自分自身のフィードバックを、後期の活動に活かそうとしていた。このワークショップの活動は、教員養成における小学校英語指導トレーニングとして機能していると考えられる。
5. The use of Edmodo to enhance second language learning among Japanese and American college students (conference paper)	共	2016年09月	2016 International Conference of Japanese Language Education, At Bali Nusa Dua Convention Center, Indonesia	本発表では、教育用ソーシャルネットワークサイトのEdmodoを活用した日本とアメリカの大学生とのつながりについて、アメリカの大学生の認識について焦点を当て考察した。主な成果として、授業内での学びを授業外コミュニケーション活動に生かすことができたことが挙げられた。課題としては、1グループに人数が多すぎたことで相手へのコメントがしにくかったことが認められた。
6. 地域連携における小学校英語ワークショップの取り組み	単	2016年03月	武庫川女子大学 学校教育センター年報 第1号 pp. 79-81	本稿では、2015年度に児童英語教育ゼミの学生が行った近隣の小学生を対象に行った小学校英語ワークショップについての概要を述べた。この活動の主な成果として、学生がさまざまなアイデアを出し、小学生が英語や英語圏文化に興味を持つような活動を立案実行したこと、児童に直に接することで、実践的英語教育トレーニングを行うことができたことを報告した。
7. 新英語のねらいからみた取り組み課題はこれだ、国際理解の充実では何があるか	単	2008年02月	小学校英語セミナー29 明治図書 pp. 10-11	本稿では、小学校英語の必修化に関して、児童の英語技能の伸長を第一に目指すのではなく、国際コミュニケーションの視点が重要であり、そのためには、国際理解教育をこれまで以上に充実させていくことが必要となることを主張した。そして、国際理解教育充実のためには、指導者である教師自らが国際理解に対する幅の広い知識を身につけ、また自らが体験し、そしてそれを教室場面に反映させていくことが求められることを述べた。
8. 「必修」を成功させる年間計画づくりの要所	単	2007年11月	小学校英語セミナー27 明治図書 pp. 10-11	現代の国際化社会を生きていく子どもたちにとって、さまざまな異文化を理解すること、またその文化を持つ人々と協調していくことは、ますます重要となる。このような国際理解の考え方は、小学校英語が必修化された後も、英語技能の伸長だけを見据えることに偏らないためにも、大切にしていかなければならないことを本論では協調し、他国文化理解、自国文化理解、国際英語の理解という3つの視点から、小学校英語における国際理解を深める手立てについて述べた。
9. 「必修」のねらいを生かす小学校英語の授業の具体化のために	単	2007年04月	小学校英語セミナー 24 明治図書 pp. 16-17	小学校英語教育において児童のコミュニケーション能力を高めるための配慮事項を、第2言語習得理論を踏まえて論述した。その上で、今後ますます重視されるコミュニケーション能力に関して、指導者は、コミュニケーションとは何かということを問い直す必要があることを強調した。また、具体的使用場面を想定した言語活動を通して、話し手と聞き手がそれぞれに役割を意識することのできるコミュニケーション活動が行われることが望ましいと結論づけた。
10. 児童英語教師成功へのステップ	共	2004年11月	子どもに英語おしえてい2005 アルク pp. 41-56	本稿は、児童英語教師希望者が抱える不安について、Q&A形式で回答したものである。具体的な内容は、児童英語教師になるためにはどのようなことを学んでおくべきか、英語授業において児童の能力差にどのように対処するか、4技能のバランスをどのようにとるべきか、中学校の英語教育とのどのように連携をとるかということである。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
11. 『子ども中心ではじめる英語レッスン 学ぶ力を育む英語の教え方』	共	2004年11月	ピアソン・エデュケーション	Teaching English to Children in Asia (Paul D. 著)の「第7章 学習環境」の章の翻訳を担当した。(p. 118-133) 当該章の内容として、教室環境の整備方法や教材の管理方法などが述べられている。(共訳者 金森強、大城賢、奥村真司、坂本ひとみ、佐取美紀、師土鹿元美、東仁美、平井毎美)
12. Opinion 私はこう考える「偏見を生まない英語教育であれ」	単	2003年10月	子どもに英語おしえたい アルク p.133	公立小学校での国際理解活動における教師の言語観、異文化観について社会言語学的視点から私見を述べた。そしてその上で、国際理解の一環として行われる英語活動では、さまざまな国の人々との触れ合いを通じた言語活動を中心とし、児童の偏見のない言語観、世界観を育てるものとなるべきであることを提言した。
13. ボイエ・デ・メンテ編著 On the streets of America —アメリカ英語方言のリスニング—	単	2003年04月	英語教育2003年4月号 大修館書店 pp. 88-89	書評として、アメリカ国内に存在する英語地域変種の多様性の認識と尊重の必要性を述べた。具体的には、標準語も方言もそれぞれに文化的背景を持っており、標準語の絶対視は方言文化の否定にもつながりかねない。標準英語のインプットと同時にいろいろな英語方言を認知し尊重する態度を育てることも英語(外国語)教育には必要な要素であることを主張した。
14. 小学校英語この人の意見vol.16 偏見のない言語観を育てるために	単	2002年10月	Kids com 2002年10月号 p. 24	本稿では、公立小学校での国際理解活動の一環として行われていた英語活動に関社会言語学的な知見をもとに、外国人指導助手の質の問題や過剰なネイティブスピーカー信仰について私見を述べた。その上で、日本で英語を学習するという事は世界にある言語の中の一つを学ぶことであり、日本人にとっては外国語の中の一つを学んでいるということであり、幅の広い言語観、異文化観をもつことが重要であることを提言した。

6. 研究費の取得状況

1. 東南アジアの初等教育段階における英語教育の受容と母語教育へ影響	共	2006年04月～2008年03月	科学研究費補助金 代表 池田充裕(山梨県立大学) 基盤研究(C)18 530659	本科研報告書では、タイ・マレーシア・フィリピン・シンガポールの初等英語教育の現状を報告するとともに、4カ国における英語の扱いと英語に関わる共通点と違いを考察した。主な共通点として、どの国でも小学校段階から英語運用能力の向上を目指していることが認められた。一方、英語の扱いがEFLかESLかの違いによって、目標とする学習者の英語力が異なるとともに、BICSとCALPのどちらを重視するかによって、教育内容に大きな違いがあることが明らかになった。「シンガポール共和国」の章(pp. 95-138) おわりに「研究のまとめ」の章(pp. 167-171)を担当。(共著者 池田充裕、市川誠、鈴木康郎、手嶋将博、奥村真司)
------------------------------------	---	-------------------	---	---

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2020年10月18日～現在	UNICollaboration
2. 2015年9月11日～現在	Asia TEFL会員
3. 2006年06月01日～現在	日本比較教育学会会員